

# 物語の内よつを読み取る

名前

組 番

月 日

正答数

4

ねらい

●場面の様子や登場人物の様子を思いえがく。

## 問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

こぶしの中のトノサマバッタを勇一ゆういちに見せようと、つまみあげたときだった。バッタはゆびを思いきりけって、パツととびたつた。

①「アッ！」

おいかけてみたけれど、すぐに見うしなってしまうた。

②「どじだなあ。せっかくつかまえたのに。」

バッタは思わぬところからとつせんとびだしてきた。すぐちかくにとんで、よちよちと方向をかえたりする。そつとそつとちかづいても、トノサマバッタは敏感びんかんで、すぐにからだをクイツとしずめて、にげる態勢たいせいをつくってしまう。

バッタは、間一髪かんいっぱつまでまっつて、ジャンプいちばんとびあがると、二十メートルも三十メートルもバタバタとんで、草むらに身をかくした。にげるのをたのしんでいるようだった。わたると勇一は、さんざんくやしい思いをした。

勇一のもっている虫とりあみは、草をたたいておいたてるのに役にたつたが、あとはなんの役にもたなかつた。わたるのかぶつていたぼうしを、あみのかわりにもして見たが、それもまんまとかわされる。

おいかけまわしているうちに、さいしょにわたるがつかまえたように、着地③したときをねらうのがいいことに、ふたりは気がついた。それで、おいだすひとと、つかまえるひとにわかれてためしたりもしたが、目のまえにやってくるバッタなどいないのだった。やっぱり、ふたりはバッタのあとをおいかけるところになった。

④「わたる！」

と、声をころして勇一がよんだ。

「でけえ。」

手まねきしている。

わたるがかけつけてみると、道の上に十センチ以上もあるような、トノサマバッタがいた。じつとうごかない。

勇一はペロツとうわくちびるをなめて、そろそろちかづき、ゆっくりとこしをおろした。ゆっくりゆっくり手をバッタのほうにちかづけていく。勇一が手をおろすのと同時に、バッタはジャンプした。(最上もがみいっぺい一平「おばけバッタ」より)

◆読解のポイント①◆

⑥「たいせう」 だが、どうして、どうなったかを、読み取りましょう。

〈登場人物〉勇一・わたる

〈できごと〉わたるが、つかまえたバッタを勇一に見せようとしたら、にげられた。

← にげたバッタをおいかけまわした。 : ぜんぜんつかまえられない。

← 大きなトノサマバッタを見つけた。 : 勇一がつかまえようとした。

← 大きなトノサマバッタがジャンプした。

① 「アッ！」とありますが、何がどうしたのですか。次の□□にあてはまる言葉を考えて書きましょう。

わたるがつかまえた

□□□□□□□□

が、パッととびたって、

□□□□□□□□

てしまった。

◆読解のポイント②◆

⑥「たいせう」 バッタや、わたると勇一の様子を、くわしく思いえがいてみましょう。

① にげたバッタの様子

- ・ 思わぬところからとつぜんとびだしてきた。
- ・ ふたりがちかづくど、にげる態勢をつくった。
- ・ 間一髪までまって、ジャンプして、とんだ。

↓ にげるのをたのしんでいるような様子。

② わたると勇一の様子

- ・ おいだすひとと、つかまえるひとにわかれてためしてみた。
- ・ 大きなトノサマバッタを、ゆっくりゆっくり、勇一がつかまえようとした。

② バッタは思わぬところから……身をかくしたとありますが、にげているバッタは、どんな気持ちでいるようでしたか。文章中から一つの文でぬきだしましょう。

③ おいだすひとと、つかまえるひとにわかれてためしたりもしたのはなぜですか。次の□□にあてはまる言葉を、文章中からぬきだしましょう。

□□□□□□□□

したときを

□□□□□□□□

のがいいことに、気がついたから。

④ 「わたる！」と勇一がよびましたが、なぜよんだのですか。次の□□にあてはまる言葉を書きましょう。

十センチ以上もあるような、トノサマバッタを

□□□□□□□□

たから。

物語の内よみを読み取る

読解ポイント

- (1) バッタ・**例**にげ
- (2) にげるのをたのしんでいるよう  
だった。
- (3) 着地・ねらう
- (4) **例**見つけ

- (1) すぐあとの「おいかけてみたけれど、  
すぐに見うしなってしまった。」から、  
バッタがにげたことがわかります。
- (4) よばれたわたるがかけつけてみた  
ところ、「道の上に……バッタがい  
た。」のですから、バッタを見つけて、  
勇一ゆういちがわたるをよんだのです。